



りんご生産情報第10号
(8月28日～9月12日)



樹上選果マン
令和7年8月27日発表
青森県「農林水産力」強化本部

つがるの収穫は適期に！
良品生産に向け、樹上選果の徹底を!!
日焼け・鳥害・風害対策を万全に!!!

I 概 要

8月21日現在の果実肥大は、干ばつの影響で平年を下回っている園地も見られるが、8月上中旬の降雨により回復傾向にある。

つがるの熟度は平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で9月7日頃からと見込まれる。収穫は地色や果肉の熟度を見て2～3回くらいに分けて行う。着色を待ちすぎて収穫が遅れると、軟質化など品質低下につながるので注意する。

成らせすぎの樹がまだ見られるので、高品質生産と来年の充実した花芽形成のため、樹上選果を徹底する。

例年落果がみられないトキやジョナゴールドなど中生種で収穫前落果が見え始めたら、ヒオモン水溶剤を散布する。

気温の高い日が続く予報なので、徒長枝整理や支柱入れ、枝吊り等の際は果実の日焼けを起こさないよう注意する。

野鳥による被害を防ぐため、鳥害防止対策に万全を期す。

台風の接近や強風に備え、風害防止対策に万全を期す。

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

干ばつの影響で平年を下回っている園地も見られるが、8月上中旬の降雨により回復傾向にある。

○果実肥大

(8月21日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふじ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	8.0	—	6.9
	平 年	8.1	—	7.2
	前 年	8.6	—	7.5
	平年比	99	—	96
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本 年	8.3	—	6.9
	平 年	8.2	—	7.1
	前 年	8.7	—	8.0
	平年比	101	—	97
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	8.2	7.5	7.7
	平 年	8.4	7.7	7.2
	前 年	9.3	8.0	7.9
	平年比	98	97	107
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	8.0	—	7.5
	平 年	8.2	—	7.2
	前 年	8.6	—	8.3
	平年比	98	—	104
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.6	—	7.2
	平 年	8.2	—	7.0
	前 年	9.0	—	7.9
	平年比	105	—	103

注) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測による調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月26日現在、黒石では平年と比較して、糖度及びヨード反応はやや高く、酸度はやや低く、硬度及び着色指数は低い。総合的に見て、熟度は平年よりやや進んでいる。

○つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：8月26日)

地 域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (ボン度)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード反 応指数
黒 石 (りんご研究所)	本年	247	0.4	14.5	11.7	0.287	4.6
	平年	250	0.8	15.3	11.4	0.292	4.4
	前年	274	0.4	15.6	11.2	0.250	4.2

注1 調査系統：普通系

2 平年：2001年～2020年の20か年平均

3 落果防止剤（ストップホール液剤）散布日：8月18日

4 着色指数：0～5（大きい数値ほど着色良好）

5 ヨード反応指数：ヨードデンプン反応指数0～5
(小さい数値ほどでんぶんが少ない)

(3) 作業等の進み（8月25日現在）

見直し摘果、早生種の着色管理、支柱入れや草刈りが行われている。

2 作業の重点

(1) つがるの収穫

熟度は平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で9月7日頃からと見込まれる。熟期が揃わないので、収穫は地色や果肉の熟度を見て2～3回くらいに分けて行う。着色を待ちすぎて収穫が遅れると、軟質化など品質低下につながるので、適期に収穫する。

山選果に当たっては、日焼け果、さび果などは、出荷先の基準により選別・出荷する。山選果で取り除いた果実は加工用に仕向ける。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油上がりなど品質の劣化が早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

つがるの収穫時の標準指標

硬度	糖度	ヨード反応	食味
13～16ポンド	12%以上	3.5以下	3.5以上

注) 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

(2) 樹上選果

一部園地で成らせすぎの樹が見られる。着果量が多いと、翌年産の花芽形成などに悪影響を及ぼす。今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病害虫被害果、日焼けなどの障害果の摘み取りを徹底する。

(3) 「8月末」の薬剤散布

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月29～30日頃に実施する。

散布むらが生じないよう基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

シンクイムシ類の産卵が続いているので、防除剤を使用する。

なお、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。

「8月末」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10a
黒石	8月29～30日頃	オーソサイド水和剤 又はアリエッティC水和剤	800倍 800倍
弘前		又はダイパワー水和剤 又はベフラン液剤25	1,000倍 1,500倍
三戸			500ℓ

斑点落葉病が問題となる園地では、オーソサイド水和剤以外の薬剤を選択する。

炭疽病の多発条件下では、オーソサイド水和剤を選択する。

褐斑病の多発条件下では、アリエッティC水和剤以外の薬剤を選択する。

アリエッティC水和剤及びベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(4) 「9月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

すす斑病・すす点病の発生が例年多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、黒石、弘前、三戸で9月15日頃に特別散布を行う。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないよう基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

「9月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

地域	散布時期	薬剤名	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	9月15日頃	オーソサイド水和剤80 又はストライド顆粒水和剤 800倍 1,500倍	500ℓ

(5) 腐らん病対策

本年も発生が多い。枝腐らん・胴腐らんを放置すると伝染源となるので、見つけ次第すみやかに処置を行う。

処置方法については、令和7年8月6日発表「りんご生産情報第9号」を参照する。なお、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルにも掲載している。
(<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)



二次元コード1
: トップジンM
オイルペースト



二次元コード2
: バックスプレー



二次元コード3
: 泥巻き法

(6) 黒星病対策

被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(7) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシンAL水和剤1,000倍も使用する。

ポリオキシンAL水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(8) 褐斑病対策

被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(9) 炭疽病対策

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

また、発病果を放置すると二次伝染により被害が増加するので、必ず摘み取り、土中に埋める。

(10) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(11) ハダニ類対策

高温・乾燥が続くと急増するため、よく観察して発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは同系統の薬剤なので、合わせて年1回以内の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔をあける。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
カネマイトフロアブル	1回	×	○
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	×
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	1回	○	×
ダニコングフロアブル	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(12) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

また、被害果を流通させないために、収穫した果実は選果時に徹底して選別する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切

な管理を行う。

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、9月以降も防除剤を使用する。

(13) リンゴコカクモンハマキ対策

幼虫の発生の多い園地では、9月上旬または中旬にスピノシン剤を使用する。また、果実に接触している葉を早めに摘み取る。

リンゴコカクモンハマキに対する殺虫剤の適用表（9月以降）

薬剤名	倍数	使用時期	年間使用回数
スピノシン剤	ディアナWDG 10,000倍	前日	2回
	デリゲートWDG 10,000倍		

(14) クワコナカイガラムシ対策

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋して被害の軽減を図る。

(15) 果樹カメムシ類対策

カメムシ類に果実が吸汁されると、果実肥大に伴い吸汁部位がくぼみ、ビターピットやコルクススポットの生理障害やアブラゼミによる吸汁害に類似した症状となる。収穫時期が近づいた果実では、吸汁部位が弱くくぼみ、表皮から数mm離れた部位がスポンジ化する。園内をこまめに見回り、成虫、卵塊、幼虫が確認されたら、すみやかに捕殺、除去するとともに、必要に応じて、「令和7年度農作物病害虫防除指針」を参考に防除薬剤を散布する。その際、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

令和7年度農作物病害虫防除指針

<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/10884>



カメムシによる被害果

(16) 中生種の収穫前落果防止対策

例年落果がみられないトキやジョナゴールドなど中生種で収穫前落果が見え始めたら、果肉の軟化しにくいヒオモン水溶剤を散布する。ただし、散布後4日間は収穫できない。

(17) 中・晩生種の着色手入れ

着色手入れは、早生ふじで9月10日頃から、シナノスイート及びジョナゴールド（無袋）で9月20日頃から行う。

早くからの強い葉摘みは品質低下を招くので行わない。ある程度着色した頃から始め、収穫までに2回程度に分けて行う。

摘葉剤ジョンカラープロを使用する場合は、ふじのみとし、使用時期は「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

(18) 徒長枝整理、支柱入れ、枝つり

樹冠内部に日光を入れ、薬液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってるので支柱入れや枝つりを行う。

なお、今後も高温が続くと予想されている。主枝や果実の日焼けの発生を防ぐため、過度な徒長枝の剪去は控える。また、高温時の支柱入れ、枝つりは控える。

(19) 日焼け対策

日焼け果の発生が懸念される場合は、遮光資材を樹上に被覆する。遮光資材は日焼けの心配がなくなり次第取り外す。

(20) ジョナゴールドの除袋

除袋は9月15日頃～25日頃にかけて行う。

着色むらをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉も摘み取る。

二重袋の内袋は、日焼けを発生させないため、曇天か晴天の日中（10時～14時）にはぎ取る。

(21) 鳥害防止対策

野鳥による被害を防ぐため、以下の対策を行う。

ア ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

イ 釣り糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合1m以下）で張るようにするが、ヒヨドリは体が小さく、さらに飛行能力が高いため効果は低い。

ウ ディストレスコールを利用した音声機器や爆音機、かかしなどの防鳥器具は慣れが生じやすいので、ひとつの器具を長期間使用せず、様々な器具を組み合わせながら短期間で変えるようにする。

(22) 風害対策

台風の接近や強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(23) 雪害樹の管理

ア ビターピット対策

雪害の影響で例年よりも樹勢が強い場合は、ビターピットが多くなることが懸念されるので、適宜、対策を講じる。

なお、対策については、令和7年8月6日発表「りんご生産情報第9号」を参照する。

イ 雪害を受けた枝の支柱の手直し、側枝の吊り上げ

果実の肥大に伴い、復旧した雪害の傷口が、再度開いてしまう場合があるので、傷口が開かないよう適宜見直しを行う。

(24) 土壤乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1m²当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

3 その他の一般作業

- (1) 草刈り (2) ビターピット防止対策 (3) 縮果病（ホウ素欠乏）対策
- (4) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

4 今後の作業（9月13日～10月3日）

- (1) 樹上選果 (2) 中生種の収穫 (3) 中・晚生種の着色手入れ
- (4) 風害対策 (5) 鳥害対策 (6) ビターピット防止対策
- (7) 苦土欠乏対策 (8) 腐らん病対策 (9) 草刈り

《りんご研究所参観デーのお知らせ》

五戸会場（りんご研究所県南果樹部）：9月12日（金） 9:00～15:00



黒石会場（りんご研究所）：9月18日（木） 9:00～15:00

※研究成果について講演会やポスターによる展示などがあります。

※詳しくは、りんご研究所「イベント情報」

五戸会場 (<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2024070500022/>)



黒石会場 (<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2024070400025/>)

《 青森りんご植栽150周年記念イベントのお知らせ 》

令和7年（2025年）は、青森県にりんごが植えられてから150年の記念すべき節目の年「青森りんご植栽150周年」です。青森県全体で青森りんごを盛り上げていくため、9月13日（土）に弘前市民会館大ホールで青森りんご150周年記念イベントを開催します。

大ホールで行うイベントの応募は終了しましたが、同会館の大・小会議室ではりんごの歴史パネル展、ラジオの生放送、あっぷるぱい（牌）の無料体験も行われ、こちらは参加自由となっております。

また、13日（土）14日（日）に追手門広場では、りんごに関連するグルメ・クラフトイベントを開催します。多数の参加をお待ちしております。



《 雪害を受けた樹の伐採・抜根等に必要な作業用機械の借上げ経費を支援します 》

県では、雪害を受けた樹の伐採・抜根等に必要なバックホーなど作業用機械の借上げ経費を支援しています。

令和6年12月以降の経費が対象となりますので、詳しくは申込先までお問い合わせください。

申込先：各地域の果樹産地協議会

申込期限：令和7年8月末日まで



《 「あおり9」の生果実流通 》

現在、「あおり9」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和7年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。

令和7年10月27日以降は、「あおり9」で販売してください。

青森県農薬危害防止運動展開中（6月～8月）！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ツキノワグマ出没警報発令中！！（5月1日～11月30日）》

- ・1人での作業ができるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・野菜・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

《 热中症対策を行いましょう！》

◎热中症予防運動を展開中です（6月1日～8月31日）

热中症による緊急搬送者が近年増加傾向にあります。こまめな休憩をとり、水分・塩分補給を行い、热中症を予防しましょう。

◎労働者への热中症対策が義務化（罰則あり）されました

本年6月に労働安全衛生規則が改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、热中症対策が義務付けられました。

热中症対応フローなど必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示しましょう。

「張り紙」のひな型については、青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」に掲載しています。



《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

農作業安全を心がけましょう！

次の発行は令和7年9月12日（金）の予定です。

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5148、5149
017-734-9492直通